

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 神奈川やすらぎ会

## 【目次】

<b>各部門</b>		
1	特別養護老人ホーム 森の里	2
2	通所介護・通常規模型 森の里	3
3	管理・営繕部門	4
4	特別養護老人ホーム 第二森の里	5
5	居宅介護支援 森の里	7
6	小鮎・緑ヶ丘 地域包括支援センター	8
7	みらくる保育園	9
8	総務部門	11
9	厨房部門	12
<b>各委員会</b>		
11	研修委員会（森の里）（第二森の里）	13
12	防災委員会（森の里）（第二森の里）	15
13	衛生対策委員会（森の里）（第二森の里）	16
14	人権擁護委員会（森の里）（第二森の里）	17
<b>稼働率</b>		
15	特別養護老人ホーム森の里 2期比較	
16	特別養護老人ホーム第二森の里 2期比較	
17	森の里・第二森の里特養 要介護度別 2期比較	
18	通所介護 曜日別利用 2期比較	

## 1、実施報告

- ①コロナ感染症の制限が緩和されつつあるものの感染の対策を必要とする中、BANDでの研修の実施、各職員感染対策を行い外部研修にも参加することができた。
- ②職員1人ひとりがご利用者と向き合い対話をし、職員全体でご利用者の希望を共有することができた。

### 【相談員】

制限が少なくなってきた中で、ご利用者、ご家族の希望、要望、相談に対して、他セクションと協力し、解決に取り組むことができた。

### 【介護支援専門員】

ニーズに繋がるような状況に対してのアセスメントの詳細な把握と分析に努めることで自立支援に向けた適切なケアマネジメントができた。

### 【短期入所担当】

- ・多数の事業所及びご家族から施設の開放的な雰囲気が評価されている。要望は真摯に受け止め改善に向けて会議等で検討した。
- ・利用終了後に体調の変化やいつもと違う様子についてはご家族、介護支援専門員に報告し信頼関係の構築に努めた。

### 【医 務】

- ・介護職員と相談しながら生活リハビリとしてADL維持に取り組むことに努めた。
- ・看取りに関してはご利用者一人ひとりに応じたケアを提供することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症における施設内拡大・クラスターは8月9月に起きてしまったが、その際の対応の反省を生かし、3月での感染症発生時は、1階のみで感染拡大をくい止めることができた。感染者の体力低下や予後への影響は少なからずみられ、今後も感染動向をみながらその時に応じた感染対策を確実に行っていく必要がある。

## 2、研修

- 内部研修 事故防止、虐待、身体拘束研修
- 外部研修 防災センター研修、除圧研修、介護技術研修

## 3、年間行事報告

4月	お花見	1月	祝い膳
7月	七夕	2月	節分
9月	ふれあい祭り		

## 4、クラブ計画

書道クラブ（毎週月曜日） / 華道クラブ（第二、第四木曜日）

## 1. 実施報告

- ①感染予防対策を行いながら人数を制限し数回に分けて実施する等、個別機能訓練やレクリエーションを安全に実施することができた。
- ②農家をやられていた方に家庭菜園を手伝っていただく等、その方の生活歴を生かしたレクリエーションを実施することができた。
- ③バレーボール交流戦を開催し、他セクションとの交流の場をつくることができた。
- ④介護ソフトを活用し、ショートステイ時のご様子を確認するとともに、互いにアドバイスし合うなど、情報交換を密にすることができた。
- ⑤感染症対策に努めるとともに、サービス利用時に体調の変化等にも気づき対応するなど、感染拡大を防ぐことができた。
- ⑥外部研修にも積極的に参加し、参加できなかったスタッフにも情報共有を行い、介護技術等のスキルアップができた。
- ⑦ADLの向上・維持を目標に、歩行分析アプリを導入した。そのデータをご家族や担当ケアマネジャーと共有しながら、新しい事業所サービスとして提供することができた。

## 2. 年間行事

4月	お花見	10月	歩行アプリ トルト導入
5月		11月	
6月		12月	クリスマス会
7月		1月	新年会 第二森の里バレーボール交流戦
8月	夏祭り	2月	豆まき
9月		3月	

## 3. 研修

5月	食中毒研修
6月	事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待
7月	感染症予防研修 (第二森の里と合同)
11月	認知症ケア研修
12月	褥瘡予防研修 感染症予防研修
1月	事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待
2月	介護技術研修

## 1、実施報告

### ①車両管理と運用・送迎部門

- ・送迎車は多走行車が多いので、こまめに点検しオイル交換等を実施した。
- ・新型コロナウイルス5類移行後も、状況に応じ送迎時のN95マスクの着用、窓を開けての換気、エアコン使用時の外気導入を行った。

### ②設備・営繕部門

- ・昨年度も新型コロナウイルスの影響で館内の清掃等が出来ない時期があったので、みらくる保育園については休園日の祝日を利用し行った。
- ・草刈りや外部の高圧洗浄・エアコン・換気扇清掃等は、日中の職員が減ったこともあり、計画通りに実施できなかった部分もあった。

## 2、研修・講習報告

6月	事故防止・身体拘束適正化・高齢者虐待についての研修
10月	安全運転管理者講習
12月	副安全運転管理者講習
1月	事故防止・身体拘束適正化・高齢者虐待についての研修 感染症の研修

## 1、実施報告

- ・入居者のニーズに合わせた個別ケアに努めた。また日々のコミュニケーションの機会を増やし、ニーズを把握する事で満足度の高いサービスの提供に繋げていくことが必要と感じた。
- ・スキルアップを目指し、内外部の研修に職員が参加できるように努めた。また一人でも多くの職員が参加できるようにオンライン研修も活用した。
- ・終末期に向けての方向性をご利用者、ご家族と密に話し合い、嘱託医、他職種と連携を図りながら、ご利用者やご家族の意向を尊重した看取りケアを行うことができた。
- ・計画にはなかったが、デイサービスと風船バレー大会を開催し交流を図った。施設と関わりを持つことにより、短期入所利用や入居を気軽に考えていただける機会に繋げていけたらと考えている。

### 【1 階】

- ・フロア会議では各職員が意見交換できるよう、事前に会議議題に目を通すようにしてから会議を開催し、効率をあげて多くの問題解決やケースについて評価することができた。また、発題者にどう意見をまとめるかを意識してもらい、今後会議の場だけではなく意見交換できる環境作りに努めていくのが課題と感じている。
- ・看取りについてはグリーンフィングを行い行ったケアに対しての改善点や良かった点をまとめることができた。また終末期が近くなったご家族と連絡を取り合い、一緒に過ごす時間を作ることができた。
- ・基本的な礼節の部分で職員間での言葉使いに不十分なところがあると感じており次年度の課題として残った。

### 【2 階】

- ・ご利用者の誕生日は希望に合わせた外出や調理などを行いご家族も参加していただき一緒にお祝いができるように努めた。
- ・終末期では他職種と連携を取り、その人らしさを大切にすることができた。
- ・介護技術研修に積極的に参加し職員のスキルアップに努めた。

### 【3 階】

- ・ご利用者、ご家族のご要望に合わせたケアを、居室担当が中心となり話し合いを持ち、より良いケアに努めた。
- ・レクリエーションは昔の趣味や得意なことを日常のコミュニケーションの中から引き出し、家庭菜園などをご利用者の日常生活に取り入れることができた。
- ・ご利用者の誕生日は、ご家族に聞き取りを行いながら、ご家族にご利用者のお好きなものを用意していただいたり、居室にてご家族の時間をゆっくり過ごす時間を作るように心がけた。

### 【相談員】

- ・新規入居者は、入退所（居）委員会や早期面談にて、スムーズな入居に繋げることができたが、入院により空室が続いてしまい、短期入所担当と情報の共有や入院者の情報の確認が必要と感じた。
- ・担当者会議への参加、面会などご利用者やご家族と多く関わりを持つことができた。情報の収集や共有ができた。

### 【介護支援専門員】

- ・ご利用者やご家族のニーズや意向を把握し、多職種で連携を図りながらケアプランの作成を行った。
- ・アセスメントやモニタリング、担当者会議を通じて、意向の聞き取りや状態の報告を行い、情報の共有に努めた。また得た情報を他職種で共有し、ケアプランに反映する事ができた。

### 【短期入所担当】

- ・多数の事業所及びご家族から施設の開放的な雰囲気が評価されている。要望は真摯に受け止め改善に向けて会議等で検討した。
- ・利用終了後に体調の変化やいつもと違う様子についてはご家族、介護支援専門員に報告し信頼関係の構築に努めた。

### 【医 務】

- ・コロナ禍において感染対策対応に費やし、可視化した機能訓練への取り組みまでではできなかったが、日々のADL維持のために個別に訓練を介護職員と相談しながら取り組むことに努めた。
- ・看取りに関して、研修参加や伝達研修にて理解を深め、ご利用者一人ひとりに応じたケアを提供することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症における施設内での対応は随時行い、早期の対応にて感染拡大防止に努めることができた。

### 【洗濯・清掃】

- ・ご利用者に気持ち良く生活していただけるよう、清潔保持に努めた。
- ・衣類の紛失、洗濯方法の間違いがないよう確認の徹底をした。
- ・定期的にフロア、居室、トイレ等のワックスがけを実施した。

## 2、行事

4月	お花見ドライブ	11月	秋の実り祭り
8月	夏祭り	12月	クリスマス会、忘年会
9月	ふれあい祭り	1月	祝い膳、風船バレー大会
10月	運動会	2月	節分

\*随時：フロア毎に調理、折紙、塗り絵等のレクリエーションを実施

## 居宅介護支援森の里

### 1、実施報告

- 1、訪問診療を導入されるご利用者が増え在宅医療が推進された。また、医療と介護の連携が進み、入院時の連絡、退院時にはカンファレンスへの参加など情報共有を行った。
- 2、他法人の居宅介護支援事業所と事例検討を行い、ケースについて深く考え共有することができた。今後も継続し様々な視点からアプローチ出来るようにしていく。
- 3、計画的に研修会に参加しその後、会議で情報共有や共通理解ができるようにした。今後もオンラインでの研修にも積極的に参加し、ケアマネの資質向上が図れるようにする。

### 2、研修報告

5月	訪問看護の制度と使い方 (Web)
6月	やっぱり家がいい 在宅での看取り～癌末期、心不全末期について～ (Web)
7月	認知症の理解と援助 (Web) 排泄ケア (Web) うつ病を知ろう (Web)
9月	ケアマネ部会研修 「ケアマネジメントプロセス部分におけるインテーク、アセスメントの基本」 荻野包括研修会「人生の終い方」
10月	清川村包括研修会 「在宅での看取りについて」 在宅医療・介護連携に係る研修会「訪問リハビリテーションの役割」
11月	ケアマネ部会研修 「厚木市障害福祉制度とサービスについて」 (Web)
12月	多職種連携 事例検討研修会 ケアマネ部会・ヘルパー部会研修「高齢者生活トラブルの対応・予防ポイント」
1月	在宅医療・介護連携に係る研修会「看取りシリーズ」(全3回)
2月	認知症研修 映画「オレンジランプ」上映会 (Web) 小鮎緑ヶ丘包括主催 ケアマネ交流会「自分ノート」
3月	ケアプラン点検事業に係るオンライン報告会 (Web) 介護保険制度改正説明会 R6年度総合事業実施に係る事業所説明会

\*介護支援専門員更新研修、認定調査員研修、施設内研修への参加



## 小鮎・緑ヶ丘地域包括支援センター

### 1、実施報告

- ① 地域活動に関しては、講話や体操を中心にミニデイ、集いの場への参加依頼も多くなり、参加する事で地域との連携や情報の共有を図ることができた。居場所作りに関しては、地域性を考慮しながら検討していきたい。
- ② 自立支援型地域ケア会議に参加することで、予防プランに対する専門職の意見を聞くことができた。職員間で共有しながらケアマネジメントに繋げていきたい。
- ③ 総合相談窓口として多様な相談に対応し、専門機関や制度利用につなげることができた。権利擁護、成年後見及び虐待防止は速やかに対応し、切れ目のない支援をしていきたい。
- ④ ひとり暮らしや定期訪問が必要とされる方に電話連絡を行い、生活状況の確認をする事ができた。関係機関との情報共有し状態悪化の予防に努めていく。

### 2、年間行事報告

\* 第二森の里体操教室、健康相談（緑ヶ丘・小鮎）、みな来るラジオ体操（毎月実施あり）

4月	上古沢ミニデイ 体操教室、健康相談 包括便り春号発行	10月	体操教室、健康相談 小鮎お楽しみ会 包括便り秋号発行
5月	体操教室、健康相談 古松台認知症キャラバン養成講座	11月	体操教室、健康相談 小鮎地区学校協働研修会
6月	体操教室、健康相談	12月	体操教室、健康相談
7月	体操教室、健康相談 包括便り夏号発行	1月	体操教室、健康相談 日枝地区ミニデイ 包括便り冬号発行
8月	体操教室、健康相談	2月	体操教室、健康相談 緑いきいきサロン、緑副部会 ケアマネ研修会
9月	体操教室、健康相談 緑ヶ丘敬老の集い	3月	体操教室、健康相談

### 3、研修報告

- 令和5年 6月 ひきこもり支援について
- 令和5年 6月 支援者が知っておきたい法律
- 令和5年 6月 高次機能障害（オンライン）
- 令和5年 9月 成年後見人について
- 令和5年10月 訪問リハビリについて
- 令和6年 1月 生活困窮者支援
- 令和6年 2月 認知症と共に生きる

## みらくる保育園

### 1、実施報告

- ①園全体の保育士の資質向上については、一人ひとりの保育士が子どもの発達段階の理解が進み、発達にふさわしい活動を取り入れる事が出来るようになった。また、子どもの主体性を重視した活動を取り入れる保育士も増えた。特に5歳児の子どもたちは、自分たちで考え、行事に取り組む姿が見られた。
- ②体幹運動や体育指導は、職員が正確に意味を理解できたことにより、日々保育に取り入れ現代の子どもたちに弱い部分(自分の身体を自由に動かす力、瞬発力、転んだ時に自分の身体を支える力)が非常に育ち、顔を怪我する子がほとんどいなかった。しかし短時間非常勤に浸透が出来ていない事が反省点である。
- ③森の里、第二森の里との交流は、まだコロナ感染のリスクを考え、頻繁には行うことが出来なかったが、何回かは行事に参加する等交流を持つことができた。
- ④今年度、一番達成できなかったことは職員の事務作業の削減である。休憩時間の確保は11月以降出来るようになったが、一日の中でまだ職員が事務作業に追われたり、期日までに提出が出来ない現状がある。その為、保育補助を3月から雇用したことにより室内の清掃を保育補助に任せる事により保育士が子どもと向き合う時間や事務作業の時間を少しできるようになった。

### 2、行事報告

4月	春の遠足：長谷はら公園(4.5歳児) 入園おめでとう会、内科健診 こどもの日集会	10月	運動会(3.4.5歳児) 保育参観：事前予約制(0.1.2歳) 内科健診
5月	親睦遠足：本厚木カンツリー(3.4.5歳児) 懇談会、歯科健診、内科健診4月末検診児	11月	歯科健診、飯山地区ミニディ参加(5歳児) 歩け歩け遠足：若宮公園(3.4.5歳児) 個人面談(全保護者)1月末まで
6月	尿検査 厚木市保育会主催観劇(4.5歳児)	12月	クリスマス会
7月	七夕まつり会、プール始まり	1月	新春おめでとう会、交通安全教室(0~4歳)
8月	夏のお楽しみ会 プール終わり	2月	豆まき集会 体幹運動発表会
9月	保護者向け講演会(子育てカフェ) 参加者13名 人形劇林座観劇(4.5歳児)	3月	交通安全教室(5歳児)、ひなまつり会 お別れ遠足、お別れ会、卒園式

\*誕生会は誕生日に行う。

\*避難訓練・身体測定は、毎月実施

\*年間40回 伊勢原フォレストコーチ来園 体育指導(3.4.5歳児)

### 3、行事評価

昨年度の反省と今年度の子どもの様子を見ながら、何をねらいにしたいかが職員会議で意見が出るようになった。また、ねらいに沿った内容の検討も出来るようになっていく。しかし、会議に臨む際に各々の職員が考えて会議に臨まないで、時間が掛かってしまう。そのため後半は、少人数のグループで話し合いをするなどの工夫をしてきた。今の子どもたちを見据えてねらいを定めていることで、ほぼすべての行事のねらいが達成できた。

今後は、職員全員で行事の準備や気配りが出来るようになると更に良いと考える。

### 4、園児数推移 定員：120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳児	23	25	27	27	27	27	27	28	28	30	30	30
幼児	64	65	66	67	67	68	67	67	67	67	67	67
総数	87	90	93	94	94	95	94	95	95	97	97	97

保育士を確保することが非常に難しい状況があり、厚木市の乳幼児数が減少していくことを見越し、令和6年度より定員100名に変更する様に県に申請をした。

### 5、研修報告

4/11	保育防災カンファレンス	9/7	園内研修 絵本について
5/27	保育子育て連続講座	9/21-23	園長カンファレンス
5/28	上手な褒め方叱り方	9/22	みんなの保育勉強会
6/16	新人社員等防災体験研修会	9/28	みんなが幸せになる保育
6/24	保育子育て連続講座	10/5	園内研修 まめの木出張講座
7/6	園内研修 異年齢交流を考えよう	10/14	思春期セミナー
7/8	保育子育て連続講座	11/2	園内研修 まめの木出張講座
7/14	みんなの保育勉強会	11/8	こどもの人権とは
7/25	保育士部会新人職員交流会	12/7	園内研修 こどものともより絵本について
7/27	感染予防対策	12/13-15	保育所長等研修
8/23	5歳児担任職員交流会	1/26	子どもの主体性を引き出す保育環境
8/26	保育の今	3/14	自らにスイッチを
9/1,4	防災について考える	3/25	ビジネスに生かす青学を優勝に導いた成功の方程式と戦略

### 6、研修評価

園内研修に外部講師を依頼したり、職員同士が意見交換などをする機会を設けた。

外部研修には、非常勤職員は家庭の事情があり非常に消極的であるが、オンラインの研修には参加希望をする職員が少しずつではあるが増えている。

## 1、実施報告

- ①法人内各セクションに働きかけ資源・経費の削減を推進した。
- ②給与明細の電子化等により、ペーパー類の購入量、前年度比 16.7%減を達成した。
- ③外国人技能実習生が円滑に技術を身に付けられるようサポートすることができた。  
第二森の里 2名のうち 1名は実習期間が満了し終了、1名は特定技能に移行し介護福祉士資格を取得した。森の里の 1名については介護技術、日本語スキル共に成長がみられ次年度に繋げることができた。
- ④介護保険請求業務においては、返戻事例等に迅速に対応し処理することができた。  
また、新規導入した請求ソフトへの切り替えにも適切に対応することができた。
- ⑥助成金、補助金に関する情報収集と迅速な申請対応で、様々な助成金を取得することができた。
- ⑦人財育成については、新規採用職員の自立をサポートするための計画を策定し教育をすることができた。また、指導を担当する職員へのフォローも、毎月の振り返りとともに行うことができた。
- ⑧研修の内容によって、オンライン、オフラインを選定し、効率的かつ効果的に研修を実施することができた。
- ⑨新規導入した介護ソフトについては、ケアの質の向上、業務の効率化を視野に入れ選定することができた。
- ⑩総合評価として、おおむね計画通りに業務を遂行することができた。

## 2、年間スケジュール〔報告〕

4月	決算資料作成、県キャリアアップ助成金取得	10月	森の里 ふれあいまつり
5月		11月	第二森の里 秋の実りまつり 高齢者継続雇用奨励金取得
6月	令和5年度第1回理事会、評議員会、第2回理事会 職員健康診断(6/21, 29)、技能実習生技能試験	12月	県職場訪問エクササイズ事業参加 厚木市育成支援補助金取得
7月	技能実習生監査、かながわ福祉研究大会	1月	職員健康診断(夜勤者) 法定調書・給与支払報告書作成・提出 県物価高騰対応支援金取得
8月	厚木市育成支援補助金取得 県物価高騰対応支援金取得	2月	次年度予算資料作成、厚木市物価高騰対応支援金取得
9月	第二森の里 ふれあいまつり、国際福祉機器展 理事会(書面決議)	3月	令和5年度第4回理事会、東京ケアウィーク 24 コロナ体制確保事業補助金取得

## 1、実施報告

### (特別養護老人ホーム森の里・第二森の里)

- ①朝礼や食事委員会、日々の申し送り参加によりケアワーカーや看護師と連携を深め、適宜利用者の体調や食事摂取状況に応じた食事形態への対応を行うことができた。
- ②食事形態の物性安定のため、調理師間で情報共有や実習を厨房会議にて行った。
- ③他職種を交えた栄養ケアマネジメント体制を構築することで、森の里・第二森の里ともに栄養ケア計画書作成率 100% (対象者は入居(所)者で短期入所利用者は対象外)となり、計画書に基づいた栄養ケアを実施することができた。

4月	お花見弁当	12月	クリスマス会、年越しそば
7月	七夕(散らし寿司)	1月	祝い膳
8月	夏祭り(フロア毎企画)	2月	節分(和菓子)
9月	ふれあいまつり(弁当)	3月	ひなまつり(ひな散らし)
11月	秋の実りまつり(弁当)		

### (保育園)

- ①リクエストメニューの実施(1回/年)5歳児クラス対象 カレーライス、春巻き
- ②その他食育レクのための食材調達等行った。

4月	春の遠足(4~5歳)	12月	クリスマス会
5月	親睦遠足(3~5歳)	2月	節分
7月	七夕	3月	ひなまつり、お別れ遠足(3~5歳)
11月	収穫祭、歩け歩け遠足(3~5歳)		

## 2、研修参加報告

- 2023. 6.13 ケアフード横浜食事関連サービス展示商談会  
～食の力で高齢者を守る！低栄養を改善する介護食～
- 2023. 10.12 特定給食施設等種別講習会  
「栄養ケアマネジメントにおける施設内連携」  
「栄養ケア・マネジメントの実施に向けた医療機関等との連携」
- 2024. 1.24 調理職員等研修会  
「最後まで美味しく召し上がっていただくために」
- 2024. 2.16 栄養士研修会  
「介護福祉施設での栄養ケアマネジメント・給食管理の取り組み」
- 2024. 2.28 保育施設対象研修会  
「こどもの好き嫌い、いつ決まる？」

### 1、構成員

田嶋亜希子、古座野布美子、本杉ひろ子、門倉千絵

### 2、実施報告

業務に必要な知識、技術等を習得出来るようコロナ渦での対応に合わせた研修計画を立て、実施し、より専門職としての確立を目指した。

外部研修で学んだ知識を伝達研修を行い、施設内で共有した。

BANDによるオンライン研修の実施、浸透化を目指した。

日程調整等、委員で必要な情報を共有し、外部講師研修を実施した。

### 3、研修実施報告

5月	食中毒研修
6月	事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待
7月	感染症予防研修（第二森の里と合同）
11月	認知症ケア研修
12月	褥瘡予防研修 感染症予防研修
1月	事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待
2月	介護技術研修

### 4、総評

コロナ感染があり、計画通りに研修を行うことができない状況ではあったが、動画等を使用し、知識・技術の習得ができた。

外部研修に参加した職員による伝達研修が調整できず、共有しきれていない部分があり、次年度への課題とする。

- ・人権擁護委員会主催

BANDによるオンライン研修で実施し、浸透化を目指す事が出来た。

### 1、構成員

舟口幸子、増田亜希子、原田雄史、赤間由梨

### 2、実施報告

内部研修

開催月	研修名	開催方法	参加人数
4月	B C P研修	資料回覧	81名
5月	オムツ研修	集合	17名
5月	事故防止	集合	79名
7月	感染症予防	集合	63名
8月	ハラスメント	資料回覧	90名
9月	ターミナルケア	集合・資料回覧	86名
10月	口腔ケア	集合	27名
11月	身体拘束	資料回覧	85名
12月	食中毒予防	資料回覧	89名
1月	褥瘡予防	資料回覧	44名
2月	事故防止	集合	58名
3月	虐待防止	動画視聴	83名

外部研修

開催月	研修名	参加人数
4月	新入社員等防災体験研修	3名
7月	かながわ福祉研究大会	8名
10月	国際福祉機器展視察	4名
11月	かながわ高齢協 職員研修会	4名
2月	かながわ高齢協 介護技術研修会	2名
3月	厚木氏社会福祉施設連絡会職員研修会	16名

### 3、総 評

- ・コロナウイルスの影響で計画通りとはいかなかった際に、BANDを活用し、開催方法の変更を柔軟に変更し、円滑に研修を開催することができた。
- ・外部の講師を呼んで開催した研修は好評だったので、来年度以降も積極的に外部講師を呼んだ研修を行いたい。
- ・内部研修の参加人数に対し外部研修の参加人数が少なく、外部研修があるという事から知ってもらい、研修委員からも参加を促す動きが必要という課題が残った。

## 森の里 防災委員会

### 1、構成員

松本純子、三浦徳生、篠崎あゆみ、橋本啓太、浅賀悟、高橋亜由美

### 2、実施状況

6月 8日 大雨による土砂災害避難訓練

7月 19日 防火センター体験研修実施

11月 17日 火災を想定した避難訓練（夜間想定・通報訓練）実施

1月 24日 地震・災害を想定した避難訓練実施

### 3、その他

緊急連絡網更新実施、ヘルメット・懐中電灯点検実施、防災頭巾の虫干し

毎月：防火設備点検、備蓄庫点検実施 毎月第3木曜日 定例会議実施

### 4、総 評

年間計画に基づき、避難訓練は、コロナウイルスの感染により延期を余儀なくされたこともあったが、すべて実施することができた。

災害BCPに伴い施設の周りの危険箇所や避難通路の危険な場所を確認することができた。

## 第二森の里 防災委員会

### 1、構成員

防火管理責任者 西迫 哲 星野晃徳、白井聖、橋本圭子、佐藤美奈

### 2、実施状況

水害訓練 7月 7日 大雨による浸水訓練

避難訓練 9月 27日 地震・災害を想定した訓練（通報訓練・消火器訓練）

11月 30日 火災を想定した訓練（夜間・消火器訓練）

### 3、その他

緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施

毎月 防火設備点検

備蓄庫点検実施

毎月1回 定例会議実施

### 4、総 評

年間計画に基づき、義務である避難訓練は、夜間想定した訓練が新型コロナウイルス感染症のため延期したが、他の訓練は概ね予定通り実施することができた。

新型コロナウイルス感染症により厚木防災センターでの災害訓練については、感染者数増加に伴い実施は見送り、次年度においても感染状況から随時実施判断していくことが想定される。



## 森の里 衛生対策委員会

### 1、構成委員

西迫哲、小林秀也、門倉千絵、岩崎佑里・、阪口百恵、志賀優美、橋本啓太  
三橋亮太、白澤亮、澤田由里子、清水明、神崎りえ

### 2、実施報告

- ①研修を通して感染対策におけるスキル・手技の見直しを行うことができた。
  - ②新型コロナウイルス感染症のクラスター発生を経験し、職員皆が危機感を持ちながらより良い方法での感染対策を実施することができた。
- また、研修を通して理解不足の点や不安な点を見出し確実に実施できるように伝達することができた。
- クラスター発生時だけでなく、各部署の衛生対策委員からの働きかけを増やし日常もできる感染対策の維持につなげていきたい。

### 3、活動報告

4月	食中毒研修(5月実施)
7月	施設内環境整備 衛生面・消毒方法の徹底
10月	ノロウイルス・インフルエンザ予防対策伝達
1月	新型コロナウイルス感染症研修(動画配信)

## 第二森の里 衛生対策委員会

### 1. 構成員

西迫初美、圓福るり子、丹羽涼、古屋明子、川越直美、横山恵美、大瀧亜希奈  
白澤亮、芦田美幸、鈴木裕、塩川匠、千葉京子

### 2. 総 評

- ・3か月に1回の定例会議を実施するとともに、コロナ陽性者が出た際は臨時の会議を実施し早期解決にむけて対策を講じた。また、BANDアプリやZOOMを活用し、リアルタイムで情報共有を行い現場に居なくても相談や指示出しができるような体制を構築することができた。
- ・1年間における職員のコロナ発生件数は6月1名、8月1名、3月4名、計6名感染しており感染経路としては4名が家族内感染、2名が施設内感染(同日に感染対象者介助)と思われる。職員間でのクラスターは発生していないので早期対応に努め感染拡大を抑える事ができた。
- ・施設内入居様は3月に1階・2階がクラスター発生し感染経路はショートステイご利用様様が1階・2階にて過ごしており、無症状から夜間帯に発熱あり翌日抗原検査にて陽性となった事が要因と思われる。発生後は特別対策委員会を開催しゾーニングや陽性者対応に努め、また症状変化やSPO2低下対象者については医務や他職種とも連携し仁厚会病院への入院をスムーズに行うことができ、来早期終息に向けての対応に努めた。

## 1、構成員

管理者：西迫哲

小林秀也、三橋亮太、児玉涼輔、阪口百恵、門倉千絵、橋本啓太  
仲亀和子、菅原綾加、濱田雪乃、ファミティミン・カイン

## 2、総 評

毎月の事故報告書をもとに検証を行い、意見を各セクションから再発防止策などを検討、議論を行い、各フロアに周知する事で再発防止に役立てることが出来ました。コロナの影響でグループワーク実施出来なかったが、BANDを利用し、高齢者虐待、事故防止、身体拘束の研修を行い、研修レポートを通して日々の介護へつなげることができた。

ヒヤリハットの件数の報告数が少ないという課題が残るが、次年度はミーティング等で報告し、報告件数の増加の実施、事故再発防止に努める。

## 1、構成員

西迫初美、鈴木裕、大本由美子、白井ロサナ、荒川早紀

## 2、総 評

ヒヤリハットをPCに記録することにより職員間での共有をすることができた。しかし、記録者に偏りもあり、記録漏れもあると思われる。

また以前まではPCからの入力になってしまうため記録する時間や場所が限られてしまう事があったが、3月からの介護ソフトの変更によるiPadでの入力も可能になったので今後活用していけるように努める。

事故やヒヤリハットの内容を他フロアや医務など各セクションで報告し情報を共有することができた。

今まではコロナの影響もあり動画や回覧方式での研修となっていたが、事故防止に対する意識や施設としての取り組み方を共有するべく全員参加によるグループワークでの研修を今年はいり多職種間での意見交換の場を作る事が出来た。3月より介護ソフトが変わり事故報告書の作成に写真を貼付する事により実際の事故の様子を共有しやすい形になっている。

2023年度	年間事故件数	394件
	年間ヒヤリハット件数	341件

## 令和5年度事業報告 追加報告（P15～P16）

### 業務継続計画（BCP）の取り組みについて

- ①BCP計画書を策定する。
- ②研修・訓練の実施後、研修レポートや訓練実施結果報告書より見直し部分を検討し、計画書の改訂を行う。訓練は防災訓練・感染症研修の中に盛り込み実施する。

### ◆高齢者総合福祉サービスセンター森の里◆

#### <自然災害BCP取組状況>

- ①業務継続計画（BCP）計画書の策定  
施行：令和3年 10月26日  
改訂：見直しの事案なし
- ②研修および訓練：6月8日大雨による土砂災害避難訓練、1月24日地震・災害想定避難訓練を実施、施設周辺の危険個所、避難経路の危険個所を確認した

#### <感染症BCP取組状況>

- ①業務継続計画（BCP）計画書の策定  
施行：令和6年 4月 1日
- ②研修：未実施  
訓練：未実施

### ◆第二森の里◆

#### <自然災害BCP取組状況>

- ①業務継続計画（BCP）計画書の策定  
施行：令和5年 4月 1日  
改訂：令和5年12月 1日（内容：避難誘導担当、訓練実施担当を追加）
- ②研修：5月24日～29日の期間にBANDにて研修動画配信、回答リンクよりレポート提出  
訓練：7月7日大雨による浸水避難訓練、9月27日地震・災害想定避難訓練を実施

#### <感染症BCP取組状況>

- ①業務継続計画（BCP）計画書の策定  
施行：令和5年 4月1日  
改訂：見直しの事案なし
- ②研修：5月24日～5月29日の期間にBANDにて研修動画配信、回答リンクより研修レポート提出  
訓練：7月27日：感染症予防研修に盛り込み実施